

「第24回天文天体物理若手夏の学校」報告

天文天体物理若手夏の学校（以下「夏の学校」）は今年で24回目を迎え、若手研究者の自主的な研究会として活発に活動が続いている。

ここではお世話になった方への報告を兼ねて今年の夏の学校の総括を行いたい。

1. はじめに

今年の夏の学校は私達東北大学が事務局を務め、岩手の八幡平ライジングサンホテルを借り切り7月23日～27日に開催されました。毎年参加者も増え、去年からは東アジア若手天文学者交流会（以下「国際セッション」）からの参加者も迎えており、今年は300人規模になりました。

以下に今年の夏の学校での分科会、全体企画、その他について順次報告いたします。7月26日～27日に行われた国際セッションについては別途記載されておりますのでそちらを参照してください。

2. 分科会

今年は合計9分科会（銀河・銀河団、恒星・太陽、自己重力、天文学と社会、コンパクトオブジェクト、観測と理論の信頼性、観測機器、相対論と宇宙論、星形成）を行いました。今年は事務局から（「天文学と社会」を除いて）口頭発表は招待講演に限り、一般発表は全てポスター発表で行ってもらうよう提案しました。これは、個人の研究発表が中心となる一般発表では、話し手と聞き手の距離が近いポスター発表の方が質問や議論が活発になり、実りあるものになると考えたからです。一般発表の全てをポスターとすることに抵抗のあった分科会もありましたが、一部を口頭発表にすることで合意してもらいました。ポスター発表は、発表者毎に持ち時間を設けて、その時間に説明してもらうようにしました。ポスター発表については部屋が狭いといった意見もありましたが、あちこちで熱心な議論が交わされ、発表時間以外にもポスターを読む姿が見られるなど、この方式は好評でした。

3. 全体企画

毎年夏の学校では、全体企画の枠を設けて皆が興味を持てるテーマを選んで勉強しています。今年は「複雑系のシミュレーション」をテーマにしました。複雑にみえる自然現象をコンピュータにより解明する手法として、現在大きく分けて二つの立場がとられます。一つはいわゆる「大規模シミュレーション」で、もう一つは「現象を粗視化したモデルでの計算」です。この二つの立場から、それぞれ筑波大学の梅村先生、東京工業大学の柳田先生と東北大学の高安先生をお招きして講演をしていただきました。話題を天文学に限定せず、広く物理現象を理解するという立場で企画したので、どのような反響があるか気になったのですが、出席した人の多くから大変面白かったという感想をいただきました。

4. その他

今回は、有意義な夏の学校となるように様々な工夫をしました。例えば縦長の部屋では後ろからOHPが見難いという問題を避けるため、ビデオで途中に中継しました。これは出席した人から大変好評でした。また、従来作られてきた資料集に加えて、一般発表者の発表内容をまとめたアブストラクト集を事前に準備しました。さらにポスター発表では、常にポスターを見られるようにすると共に、発表時間や発表者の部屋番号を記載した用紙を掲示し、議論する機会が得易くなるよう配慮しました。その甲斐あって、夏の学校は各日も盛況に終えることができました。

最後に、援助して下さったスタッフの方々、忙しい中時間を割いて下さった招待講演者の皆様、そして座長の皆様方に心からお礼を申し上げてこの報告を終わりたいと思います。

（文：兼武、塩谷）

第24回夏の学校事務局

東北大学天文学教室若手の会